

自己評価及び外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	利用者が住み慣れた地域で生活が継続できるよう、お一人お一人の生活環境を知ったうえで、日々の生活が楽しく過ごせるように、毎朝情報共有している。	理念は毎朝のミーティングで読み上げ、サービス実践につなげている。基本要項(基本方針)はサービスに結びつくわかりやすい表現で箇条書きで整理されていて、理念と同様に全職員がその意味を理解して実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事にも参加し、日々の生活の中でも季節に応じた催し物を近所の方と楽しみながら行っている。永田小学校2年生との交流がほぼ毎月あります。豊田中学校1年生とも交流があり、そば打ち大会をしました。	事業所は季節にあった行事を実施していて、地域住民の方も積極的に参加し協力をいただいている。小学校の子どもやその親との交流も日常的で、利用者も楽しみにしている。地域との交流は深く、地域ぐるみの関係ができています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	近隣のお年寄りが、どんなところか個々でみえたり、集団で見学にみえたりしました。その際、認知症になっても安心して快適に生活できる旨を説明しました。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	隔月に開催し、利用者様の状況・行事や今後の予定等を報告、評価や話し合いを行い、サービス向上に役立てています。	区長・民生委員・行政など地域関係者と家族の代表者などがメンバーとなっていて、定期的開催されている。会議では、メンバーから積極的な意見や提案をいただき、それを職員と共有して運営やサービスに反映する努力をしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力を築くよう取り組んでいる。	自然災害の避難場所や方法について相談し、指導いただいている。運営推進会議時、市職員より提案事項をいただいている。	サービス面での相談等頻繁に連絡をとり、情報収集等も行っている。そして自然災害等の対応についてなど災害対策や運営や現場の実情に対してなどの対応を共に取り組んでいる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	居室は施錠しない。ミーティングや日々の申し送り時など、身体のみならず、言葉の対応についても拘束にならないように点検している。	職員は身体拘束の内容や弊害などについて、具体的に正確に把握することができていて、利用者の自由な行動を制限しないケアの実践をしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ミーティング等で管理者が、職員に高齢者虐待防止について話、防止に努めている。		

斑尾の森グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	中野市介護支援専門員連絡会に参加し、そこで学んだ左記内容を職員に伝達している。利用者様については、ケアプラン立案の際に相談している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際は、家族や利用者に解り易く説明し、不安や疑問があれば理解・納得されるまで十分時間をかけています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会の際は、気軽に意見や要望を言っていたり心掛けています。	利用者のほとんどが要望や意見を直接伝えていて、家族からは、来訪したときには必ず意見や要望を引き出す工夫や努力をしているが、家族は気楽に率直な意見を言ってくれる。職員全員がそれを活かせる工夫や努力をしている。	これまで毎月発行されていた「ふるさとだより」をご家族に送ることの復活を期待します。利用者一人ひとりの様子や表情を家族が知ることができるので、より率直な意見をいただけることにつながると思います。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々のミーティングや活動の中で気が付いた点や、提案等気軽に職員が発言できる環境づくりに心掛けている。	管理者は職員の表情や様子を見ながら、個別に声をかけ相談に応じていて、出た意見を活かしていく努力をしている。職員はミーティングの時だけでなく日常的に意見できる環境であり、働く意欲や質の確保につながっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	就業規則を定めているのは勿論、職員の意見が柔軟に反映でき、遣り甲斐の持てる職場づくりに努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修を受けられる機会を増やし、一人一人がスキルアップしていける環境作りを努めています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	毎月、市の連絡会に計画作成担当者は参加し、勉強しています。そこで得た情報はミーティングで報告しています。		

斑尾の森グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ケアプラン立案時や困った様子がみられた際は、傾聴したり要望を聞くなどして利用者様が笑顔で安心して生活できる様心掛けています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の想い・困っていること・要望などを聞き、書きとめ、ケアプランに反映させ、良好な関係が築けるよう努力しています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人と家族の想い、現在の状況を確認し、自立支援や役割、暮らし方等を探り、実現可能なものになるよう努めています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の意向・気持ちを理解し、話をしながら、家事や排泄介助を行っています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会の際は、日頃の様子を口頭やビデオ、写真などで説明しています。言葉だけでなく、目で表情や動作や職員との関わりも見えるので安心されます。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	施設に來たり、外泊したりして、知人や親戚の人との触れ合いは勿論ですが、近くの畑でも立ち話ができるよう、外に出ることに努めています。	積極的に継続するための機会をつくる努力をして実践している。そして日々、利用者一人ひとりが馴染みの人・場所・品物などとの関係が継続できるよう利用者の様子にも敏感に察知できる支援に取り組んでいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様をよく理解し、個別に話を聴いたり、調整役となり、仲良く楽しく過ごせるように努めています。		

斑尾の森グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他の事業所に移られた場合も状態などを家族に聞いたり、相談にのったりするように心掛けています。当施設で看取った利用者さんの家族とも関係が続いています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン立案の際や日々の生活の中で意向を聞いたり、汲み取ったりして、支援・共同作業を行っています。困難な利用者さんに対しては、家族の意向を尊重し、職員で話し合いをし本人本位となるように心がけています。	利用者と家族の思いや意向を大切にしている、利用者の状態に応じた対応にも努めている。職員は全員でカンファレンスやミーティングなどの会議や日常ケアの中で、情報を共有し、本人の視点に立った取り組みをしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所の際の聞き取りだけでは不十分なので、日々の会話の内容を家族に確認しながら、利用者さんを理解し、馴染みの暮らし方・生活環境に近づけるように努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	その日の担当者が利用者さんとの関わりの中で、身体的・精神的状態を把握し、必要な支援を行い、記録し夜勤者に申し送っています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプラン立案の際は、本人の状態・意向・家族の意向を確認し、素案を作り、サービス担当者会議を行っています。修正したプランを本人に確認後、実施し評価しています。	本人や家族の意向をベースに計画作成担当者が管理者や職員と話し合って作成する。目標に対する具体的なサービス内容を盛り込んだ計画になっている。状態の変化などがあった場合など必要に応じて職員全員で話し合って変更や、評価・見直しを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	その日の担当者が個人記録にケアの実践や結果、気づきなどを記録し、夜勤者に申し送りを行っています。夜間の様子は、当日勤務の職員全員に報告しています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	医師の訪問診療や訪問看護師による健康管理のほか、理髪や歯科医の往診など、必要なニーズに早期に対応しています。		

斑尾の森グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	行事などには近所の人にもお手伝いをお願いし、利用者さんが安全に楽しく参加できるようにしています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	訪問診療の際は、本人が医師にうまく伝えられないこともあるので、職員が間に入り伝えていきます。受診の際は、介護と医療の連携票を用いて、医師と連携するようにしています。	月2回の協力医の往診があり、訪問看護も使っている。これらは24時間対応が可能となっている。情報の共有がきちんできていて、医療との連携は図られている。状態の変化があった時は、協力医が家族に直接説明したり情報を提供してくれるので、不安がない。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日のバイタルチェック、排便の有無、尿の性状などや様子でいつもと違うときは、看護師に報告しています。看護師は医師に相談し、指示を実践しています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現在医療連携が取れているため、ほぼ入院せずに対応できています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合の医療の選択や看取りについて、入所の際や状態が変化した際に、家族に意向を確認しています。医師・訪問看護師・管理者・家族・職員等のチームで支援しています。	終末期に関して家族との話し合いや説明ができています。看取りの指針は作成されている。状態の変化に応じて家族・職員・協力医・訪問看護など関係者で話し合いをしてチームで支援する体制である。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	利用者の急変(救急車が到着するまでの対処方法)については、ケースの想定をしながら、話し合いを繰り返し行っています。事故発生時も同様です。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回は、利用者さんと共に、避難訓練を行っています。つい先日7/10に震度5弱の地震があり、指定された避難場所へ行政の協力により避難しました。民生委員さんも心配し来訪していただきました。	年2回の避難訓練を行っていて、消防署職員の指導やアドバイスを受けている。毎回自動火災通報装置やスプリンクラーの設備についての説明や訓練も行う。今年度は夜間想定避難訓練を行った。本社との連携ができる体制であり、地域住民からの協力も得られる体制が整っている。管理された備蓄がある。	一時避難に関する訓練は繰り返されていて、職員の意識も高い。地域からの協力や協定も交わしているので、今後は最終避難場所の確保や移動手順などについての検討や訓練の実施を期待します。

斑尾の森グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシーに関する事、尊厳に関する事は、居室で話したり対応しています。特に排せつに関する事は、気を付けています。	利用者一人ひとりの誇りを尊重することを貫き通している。そして全職員間でも尊重しあう関係ができていて、尊厳を守ることの意味を理解して実践している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	常に優しい言葉遣いをするように心がけ、何でも話していただけるように努めています。傾聴することを大切にしています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者さんの意向や気持ちを尊重し、その人のペースで生活できるように支援しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着替えの際は、着たい服を選択していただき、身だしなみについても必要な時に、声掛け又は支援しています。化粧している利用者さんもあります。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者さんのできること、得意なことを生かしながら、安全に作業ができるよう支援しています。職員も一緒に会話し、食事や片づけを行っている。	利用者が作業する畑や田んぼで収穫したお米・野菜、漬物も食卓に並ぶ。共有スペースと同じ空間のキッチンで利用者と会話をしながら職員が調理をする。煮物の匂いや揚げ物の音を聞きながら、利用者ができることは手伝ってもらって食事準備や片付けをしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	体重の変化や身体の状態に応じて、食事の量を加減しています。水分量を測定し、脱水予防を行っています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自分でできる方は、声掛けや見守りを行い、そうでない方は、毎食後義歯洗浄・口腔ケアを行い、肺炎の予防をしています。		

斑尾の森グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	利用者さんの動きを敏感に察知し、自尊心を傷つけないよう、個々に応じた介助を行っています。おむつを使用されている方でもトイレで排泄していただいています。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンや行動を把握して、個別の対応ができています。カンファレンスやミーティングでも話し合いを行い、身体機能の向上のための個々にあった対応をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の方は、牛乳やヨーグルト、十分な水分を摂取していただいています。医師に相談し、個々に適した下剤を服用していただいています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	一番風呂は、皮膚トラブルのない利用者さんは交代で入っていただいています。利用者さんが入りたくない日は無理せず、翌日に入っていただいています。	週3日を入浴日としていて、2回は入浴できるようにしているが、利用者が入りたい時に入れるように準備や体制は整えている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中は、散歩・リズム体操・歌を歌うなど活動的に過ごし、生活リズムを整えるよう支援しています。室温管理や掛け物調節も行っています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明書を個人別にファイルしており、副作用や用法などが誰が見てもすぐ分かるようにしています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	人の役に立ちたい、出来ることはしたいと皆さんがおっしゃられます。利用者さんの性格や能力に合わせた家事や仕事を一緒に行っています。食事や散歩、行事なども楽しみの一つとなっています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	40分くらい職員が付き添い、散歩して気分転換をしている利用者さんもいます。個々にその日の天気や体調を見て散歩したり、近くのスーパーに買い物に行っている。	行事外出や日常的な外出がある。利用者一人ひとりの体調や様子を見ながらの外出で、気分転換の散歩をすることもある。利用者は四季の移り変わりを感じる環境での外出を楽しんでいる。買い物希望する利用者とは職員が運転する車に乗ってスーパーに出かけている。家族の協力や支援もある。	

斑尾の森グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>家族によって、金銭所持の意向が異なるため、本人の気持ちや意向を尊重し、家族と相談し決めています。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>利用者さんの希望に応じて、常日頃電話や手紙が出せるように支援しています。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>過剰な湿度がなく、明るく広い快適な施設になり、体調を崩す利用者さんが少なくなった。ベランダに出て、季節を感じていただき、時にはお茶を飲んだりしました。</p>	<p>1年前までは、古民家改修型であったが、新築移転したので、これまでの経験を活かした使いやすく安全でゆったりできる空間になっている。暖かな日差しがより心地よさを増している。職員の配慮もあり、利用者はテレビを見たり自由にゆったりと過ごしている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>食堂や居間は一体的な造りで、全てが視界に入りやすくなっています。テーブルや椅子の位置を考慮し、落ち着いてくつろげるように取り組んでいます。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>テレビやタンス、ベッドなどは利用者さんが持ち込み、使い慣れた自分の部屋となるように、気を配っています。</p>	<p>ベッドやテレビなど事業所が準備したものが置かれているが、利用者が使い慣れたものを持ち込んで自分なりの心地いい部屋となるように自由に工夫した居室である。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>身体状況が変わった場合は、持参のベッドから介護用のベッドに変えています。自立を促し、かつ安全に生活できるスペースや環境づくりを心掛けています。</p>		